明代生員の諸特權——附學生を中心に——

渡　昌弘

明代中期以降、いわゆる「鄉紳」或は「紳士」と稱される階層が出現・成立したが、その契機として想定もしくは重視されているものの一つに、附學生の設置がある。すなわち附學生の設置は、士人の大部分を占める生員の無定員化をもたらし、とりわけ社會經濟の面での影響として、徭役優免特權の所持者を增加させたと考えられたからである。この點に關して報告者は、法令上、附學生にその特權は賦與されていなかったとの否定的見解を提示したことがあり、ご批判も頂戴している。ともあれ、徭役優免特權に限られることではないが、生員の無定員化による變化・影響は多方面に及ぶ筈であり、明朝はそれを十分に豫測・考慮して附學生を設置したのか、そもそも附學生が他の生員（廩膳生、增廣生）と同等の特權を有していたのか、という疑問を抱いている。

本報告は、こうした理由から、生員の中でも無定員の、そして最下級の附學生に廩膳生・增廣生と同樣の權利が賦與されていたのか、という極めて基本的な點等について、若干の意見を述べたいと思う。なお、報告の目的は以上のようであるが、「鄉紳」や「紳士」の問題とは一旦切り離し、生員に關わる制度の問題として檢討を加えていく。

辛亥革命期上海に於ける株式先物取引規制と破產處理

——一九一〇年ゴム株恐慌をめぐる一考察——

本野英一

アロー戰爭終了以來、清末中國を見舞った大規模な經濟恐慌については、既に數多くの先行研究がある。しかしそれらは、概ね恐慌の發生過程と、當時の中國社會經濟に與えた打擊のみに關心を集中し、恐慌勃發後に何が起こったのかを殆ど解明しなかった。

一八六六年恐慌以來、中國で大規模な經濟恐慌が起こる度毎に問題となったのは、條約港租界を事業活動の據點とする外國商社、銀行とその買辦を仲介者とする中國商人、錢莊との間の債權債務處理と債務者の財產保護であった。

本報告では、かかる觀點から一九一〇年の「ゴム株恐慌」を事例に取り上げる。蕭文嫻の注目すべき研究論文が明らかにしているように、この時期の東南アジアゴム株取引ブームに乘じて信用を極度に膨張させ、恐慌勃發のきっかけを作ったのは、イギリス人投資家、James Alexander Wattie と深い關係にあった二人の中國人買辦、陳逸卿と戴嘉寶であった。しかし、蕭文嫻論文とても、恐慌勃發後二人を中心に如何なる債務處理と株式先物取引規制がなされたのかを明らかにしていない。

この問題に關する最も詳しい史料は『ノース・チャイナ・ヘラルド』掲載の上海最高法廷、會審衙門で行われた民事訴訟記錄、及び

これに關連したイギリス外務省領事報告（FO228）である。この史料分析を通し、イギリスの擔保物件法、破産法が效力を發揮した上海租界が當時の中國社會全般に與えていた「衝撃」を明らかにし、從來辛亥革命前夜の一エピソードとしてしか扱われなかったこの恐慌の歴史的意義について考えたい。

一三世紀アンダルシアの「分配臺帳」

村田靖子

一三世紀に入って、ムワッヒド朝が弱體化すると、カスティーリャ、アラゴン兩國のレコンキスタは急速に進み、同世紀の終わりまでには後のグラナダ王國の領土がほぼ確定した。この世紀にキリスト教徒に占領された諸都市は、ムスリム住民の逃亡、追放のため、社會活動の擔い手が失われた。そのため、カスティーリャ王は、速やかに臣民を入植させるべく、所有者のいなくなった土地などを「分配」した。このときの記録が「分配臺帳 Libro de Repartimiento」である。この史料に記された情報は基本的には、受益者名、譲渡財産（主に不動産）の内譯、財産の所在地、財産の數量などの一覽であり、西洋史においては、當時の軍隊組織や都市住民の社會構造などを研究するための重要な史料である。一方、これをイスラム側から見てみると、直前のムワッヒド朝期のイスラム都市及び近郊農業地帶の構造の再構成が可能となるのである。今回の發表では、「分配臺帳」の解説と研究狀況を述べ、イスラム研究における利用法などを考える。

カーシュガル・ホージャ家アーファーク統の活動の一端
——ヤーリング・コレクション Prov. 219 について——

新免康・菅原純

一七～一九世紀の東トルキスタン史において、トゥルク系ムスリムが政治面で主體的な活動を展開する際に、いわゆるカーシュガル・ホージャ家はつねに重要な役割を擔ってきた。しかし、その具體的狀況を檢討するための材料は、必ずしも豐富とは言い難い。そこで本報告では、從來注目されていない史料として、いわゆるヤーリング・コレクション（ルンド大學圖書館所藏）の中にある卷物狀の一寫本（登錄番號 Prov. 219）をとりあげたい。

本寫本は、構成を吟味すればわかるように、ムハンマドの子孫の尊重を要求するファトワー、カーシュガル・ホージャ家のホージャたちに關わる系譜、ハーン・ホージャのタズキラ（＝傳說）という三部分からなるという特有の體裁をとっている。とくにタズキラ部分は、一八世紀半ばの清朝による東トルキスタン征服に際して抵抗したブルハーン・アッディーン・ホージャの活動に關する敍述を主要な內容としており、當時の重大事件を扱ったトゥルク系ムスリム側の史料として獨自の價値を具えている。他方、三部分を結合する